

「昇魂之碑」に向かい手を合わせる住職たち
＝上野村の御巢鷹の尾根で



地元住職ら30回法要
御巢鷹の尾根 520人の鎮魂祈る

520人が犠牲となった日航ジャンボ機墜落事故から8月12日で30年になるのを前に、墜落現場の「御巢鷹の尾根」で22日、地元の住職らが「30回法要」を営んだ。

藤岡市や周辺地域の曹洞宗住職ら約15人が登山。午前10時15分ごろ、標高約1540メートルの「昇魂之碑」に献花後、読経が始まった。一人一人が線香を手向けると、辺りが鎮魂の空気に包まれた。

事故直後に置き場のない遺体を預かった藤岡市の光徳寺住職、竹市文光さん(69)は「山道を登りながら、本堂にひつぎが並べられていた光景を思い起こした。事故を忘れてはいけないという思いが強くなった」と話した。29年ぶりに尾根に登った高崎市の仁叟寺住職、渡辺啓二さん(64)は「520人の思いが一瞬で断たれてしまうという本当にすさまじい出来事だった」と振り返った。

前橋区検は21日、香罰金30万円

地元住職ら30回法要

御巢鷹の尾根520人の鎮魂祈る

520人が犠牲となった日航ジャンボ機墜落事故から8月12日で30年になるのを前に、墜落現場の「御巢鷹の尾根」で22日、地元の住職らが「30回法要」を営んだ。

藤岡市や周辺地域の曹洞宗住職ら約15人が登山。午前10時15分ごろ、標高約1540メートルの「昇魂之碑」に献花後、読経が始まった。一人一人が焼香を手向けると、辺りが鎮魂の空気に包まれた。

事故直後に置き場のない遺体を預かった藤岡市の光徳寺住職、竹市文光さん(69)は「山道を登りながら、本堂にひつぎが並べられていた光景を思い起こした。事故を忘れてはいけないという思いが強くなった」と話した。29年ぶりに尾根に登った高崎市の仁叟寺住職、渡辺啓二さん(64)は「520人の思いが一瞬で断たれてしまうという本当にすさまじい出来事だった」と振り返った。